



第 71 号 2025/11/19

「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

国内初開催、15 日から開幕—デフリンピック

聴覚障害があるアスリートによる国際総合大会、第 25 回夏季デフリンピックが 15~26 日に東京などで行われる。



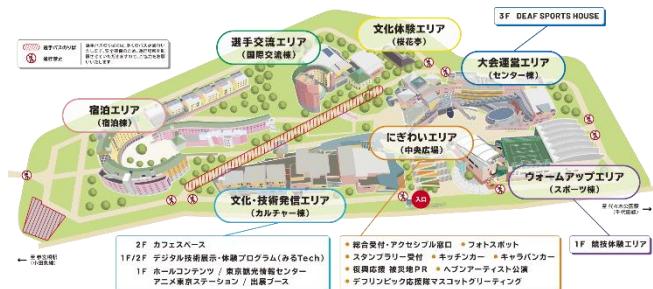
日本では初開催で、約 80 の国・地域から 3000 人ほどの選手が参加。19 競技が実施される。日本勢は約 270 人が出場予定で、メダル数は過去最多の前回 2022 年ブラジル大会を上回ることを目標に掲げる。

第 1 回は 1924 年にパリで開かれ、パラリンピックより歴史がある。4 年に 1 度行われ、参加条件は補聴器などを着けずに聞こえる最も小さい音が、55 デシベルを超えること。これは通常の会話が聞こえないレベルだという。競技中は補聴器などを外すが、それ以外のルールは健聴者とほぼ変わらない。五輪と同じ競技がある一方、オリエンテーリングとボウリングはこの大会独自だ。

日本勢は陸上でメダルラッシュが予想される。優勝候補は男子 100 メートルで前回王者の佐々木琢磨（仙台大職）、男子円盤投げで 9 月の世界選手権東京大会に出場した湯上剛輝（トヨタ自動車）ら。競泳男子で前回 4 冠の茨隆太郎（SMBC 日興証券）も活躍が見込める。団体競技では、前々回優勝のバレーボール女子や 23 年世界選手権準優勝のサッカー男子、バスケットボール女子などが金メダルを狙う。（時事通信社）



東京 2025 デフリンピックのエンブレム



選手のための大会運営拠点としての機能にとどまらず、子どもから大人まで誰もが楽しめる開かれたスペース
「デフリンピックスクエア」

今年 9 月の「東京 2025 世界陸上」はご覧になられましたか。私はシンガポールで日本のテレビを契約していないので、動画で追うことがなかなか難しく、毎日インターネットの記事を読んでいました。さあ、次はデフリンピックです！ 聞きなじみのない人もいるかもしれませんのが、1924 年にパリで第 1 回が開催されてから、100 周年の記念となる大会です。デフスポーツではきこえないことがハンデとならないよう、「目」で分かる様々な工夫がされていますので、例えばスタートの合図は音ではなくランプです。チーム競技では仲間とのコミュニケーションも手話やアイコンタクトでなされるため、連係プレーにも大注目ですね。例えば陸上のバトンパスでは相手の足音や周りの環境音も聞こえないため、普段からチームメイトと練習に練習を重ねているそうです。デフリンピックの公式 YouTube アカウントから試合を見ることが出来ますので、是非チェックしてみてください。（谷口）